

血液内科 卒後臨床研修プログラム（内科（必修／選択））

I 研修プログラムの目的及び特徴

II 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者： 塚 田 恵美子（科長・診療教授、血液内科）

III 研修指導医

研修担当責任者： 塚 田 恵美子（科長・診療教授、血液内科）

指 導 医：

塚 田 恵美子（科長・診療教授、血液内科）
三 村 尚 也（講師）
竹 田 勇 輔（助教）
塚 本 祥 吉（助教）
大 島 渚（助教）
石 井 改（特任助教）
松井 慎一郎（特任助教）
和泉 真太郎（医員）

IV 研修プログラムの管理・運営

V 募集定員

3名まで（3－4カ月間）

VI 教育課程

基本的目標

血液疾患患者の適切な診療を行うために、血液関連疾患の病態・診断・予後に関する基礎を習得する。
そして、診療をおこなう上での医療全般にわたる基礎を確立する。

具体的目標

1. 造血細胞の分化、血漿蛋白、止血機序を理解する。
2. 出血傾向、リンパ節腫脹、肝脾腫などの主要症候を理解する。
3. 全身リンパ節の触診ができる。
4. 血算、赤血球指数、末梢血液像を理解する。
5. 末梢血液標本の作製と鏡検ができる。
6. 骨髓穿刺・生検、リンパ節生検の適応と方法を理解し、その結果を説明できる。
7. 出血、凝固系検査を理解する。
8. 貧血の鑑別診断ができる。
9. 出血傾向の鑑別診断ができる。
10. 白血病の診断ができ、治療方針を理解する。
11. 悪性リンパ腫の診断ができ、治療方針を理解する。
12. 多発性骨髄腫の診断ができ、治療方針を理解する。
13. 抗腫瘍薬の作用機序と副作用を理解し、安全に投与できる。

14. 輸血の適応、合併症を理解し実践できる。
15. 造血幹細胞移植の理論、適応、合併症を理解する。

経験したほうがよい主要疾患

1. 貧血症
 - 出血性貧血
 - 鉄欠乏性貧血
 - 溶血性貧血
 - 再生不良性貧血
2. 腫瘍性疾患
 - 白血病
 - 骨髄異形成症候群
 - 悪性リンパ腫
 - 多発性骨髄腫
3. 出血傾向
 - 特発性血小板減少性紫斑病
 - 播種性血管内凝固症候群
 - 血友病

VII 週間スケジュール

曜日	午前	午後
月曜日	骨髄採取術（月に1-2回）	病棟診療
火曜日	病棟診療	病棟回診、症例カンファレンス、骨髄像カンファレンス、移植カンファレンス
水曜日	病棟診療	病棟診療
木曜日	病棟診療	病棟診療、抄読会
金曜日	病棟診療	病棟診療、抄読会

VIII 評価方法

1. 研修医の評価

研修医は研修手帳により自己の研修内容を記録、評価し、病歴の要約を作成する。指導医はローテーションごとに研修の全期間を通じて研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を研修手帳、評価表から把握し形成的評価を行う。評価は指導医ばかりでなく同僚研修医、看護師等チーム医療スタッフ等によっても行われる。

2. 指導医の評価

研修終了後、研修医による指導医、診療科（部）の評価が行われ、その結果は指導医、診療科（部）へ

フィードバックされる。